

# なにわ たいむず

No.108

## contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナジ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 ブラマエダ / アトリエナニワ
- 04 Case Book
- 06 ジムインこいけのなんでも日記  
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

# 「利用者 Yさんのイラスト+応援して下さる団体の

## ロゴ入りTシャツ」を作りました！



ライフサポートなにわ利用者 Yさんが描いたイラストが胸の部分に、そして背中になにわの里を応援して下さっている企業や団体のお名前やロゴが載っているTシャツを作成しました！応援をして下さっている方々との一体感を生み出したい、というのが今回の企画の趣旨となっています。

Yさんのイラストを中心に、応援して下さる方々、スタッフ、そして利用者さん達がつながっている、そんなことを感じられる機会になれば、と思っております。(小池)

## NEWS

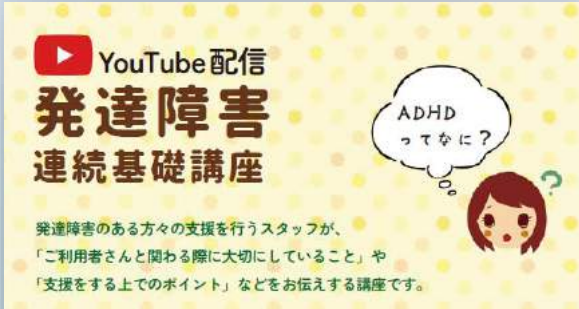
### YouTubeで「発達障害連続基礎講座」を発信しました

8月から9月にかけて、YouTubeの期間限定公開というかたちで「発達障害連続基礎講座」を発信しました。コロナ禍において会場の開催が難しくなったこともあり、昨年度からオンラインでの開催としています。

「自閉スペクトラム症について」「AD/HD、LDについて」「不適切な行動への対応」という3つのテーマで、あわせて7つの動画を公開しました。延べの視聴回数ですが、720回の視聴をして頂き、45名の方からアンケートのご感想を送って頂きました。お忙しい中、ご視聴を頂いたこと、またご感想を送って下さったことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後、どのようなかたちで継続するか検討をしています。皆様からのお声を参考にしてよりよいものを作っていきたいと思っております。

(小池)



## 管理者より 自分への投資と自身の手入れ

### 自分への投資と自身の手入れ

プライベートな話題から。実はちょっととした経緯があり、今年度子どもが通う中学校のPTAの会長をしております(スタッフにその話をしたら、「イメージそのままやん」と言われました)。初めての経験なので興味深く関わっているのですが、以前よりも学校内のことを知る機会が増えました。そこで目撃したのは、教育に熱く、生徒のために夜遅くまで働いている先生方の姿でした。そのことを機会のあることに伝えると、先生方はとても良い表情をされます。「ああ、福祉の仕事といっしょだな」と感じます。対人援助職は特にでしょうか。相手からのフィードバックが励みになります。自分の言葉が先生方の励みになればと思います。

先日の岸田首相の所信表明の中に「リスクリテラシー」という聞き慣れない言葉がありました。調べたところ「学び直し」と訳すようで、具体的には、DX(デジタルトランスフォーメーション)が進む中、デジタル技術を操れる人材を育成することで、組織内でイノベーションを生み出すというもののようです。DXを操るスキルとなるとハードルが上がりますが、今と違う分野の知識やスキル(パソコンやデザインのスキル、語学力、法律の知識など)を身につけることで、新たな業務を開拓する可能性を感じました。奇遇にも、そのような勉強をしたいと思うスタッフがなにわの里に存在しており、法人としてもできる限り応援しているところです。時代の流れに沿いながら、これからも自分への投資を後押しできる法人でありたいと思います。

「コロナ禍となり2年半が過ぎました。度重なる感染の拡大、クラスターの発生、陽性者濃厚接触者となって不安を抱えて過ごす日々、現場に残って踏ん張ってきたスタッフ。あまりに長い2年半であつたと思います。対人援助職は自分自身が仕事道具となります。道具が手入れされなければ良い仕事はできません。自分以外のことに想いを寄せることが多いかもしれませんが、対人援助職の方には自身の手入れに力を注いでくれることを切に願います。



## 一歩一歩、前に

小中学校の運動会。同じ体操服姿の全校生徒の間でもスグ目についた息子。

でも初めて皆に溶け込んで、どこにいるのか見つけられない！と感涙したのは中三の秋でした。

彼は中学で陸上部に入部をさせていただいたのですが、学校外周をランニングしている時に、気になる車やバスを追いかけたり、危険行為で近隣の方から苦情の電話をいただくトラブルもあったりする中、顧問の先生は日々指導し、公式競技会出場も認めてくださりました。

競技会本番、雨天の時は傘をさしてスタートラインに立ったり、ゴール一歩手間で急停止し、時計が切りのいい0になる瞬間にゴールしたりと、奇想天外なレース展開しながら。

部活最後の晩秋の駅伝大会では、陸上部員の皆が一定間隔でコースに立って誘導と声援を送ってくれ、笑顔で完走できた彼の姿は眩しかった…。

彼が自ら選んだ道を、自分の足で完走できるように皆様のお力添えいただきながら見守り、応援してまいります。

By おどるポンポコリン



お母さんが日々感じていることを  
ちょっとだけ垣間見るコーナーです



## 複雑で、面白い秋

秋と聞くと、2つのことを思い出します。

1つは、秋の始まりは、子どもたちにとって、長い夏休みの終わり&勉強も行事も大変な2学期の始まりでもあるということです。登校のリズムや、学校で過ごす感覚を取り戻すのに負荷がかかり、子どもたちの心身のバランスが不安定になってしまうことも。学校に行けなくなるかなあ…、と不安になる季節です。

もう1つは、自分の誕生日がある季節であるということです。これまでは、子どもたちは母の誕生日がいつかも知らないし、「おめでとう」という言葉を伝えてくれることもしませんでした。しかし、成長とともに、人の誕生日を認識することができるようになり、「おめでとう」と言ってくれるようになりました。そのようなメッセージが子どもから発信されることの喜びを感じる、嬉しい季節でもあります。

秋は、私にとって、このようなマイナスとプラスの両面がある、複雑でもあり、面白くもある季節です😊

By K・M ママ

### 【担当者からのコメント】

少し肌寒くなってきた今日この頃。

秋の訪れを感じるようになりました。

皆さんにとって、秋と言えば?? 🍁

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋…

今回は、お母さんにとっての“秋”についてインタビューしました。  
(大橋・友渕)

## 今回のテーマ

秋と聞いて  
思い出す出来事は？



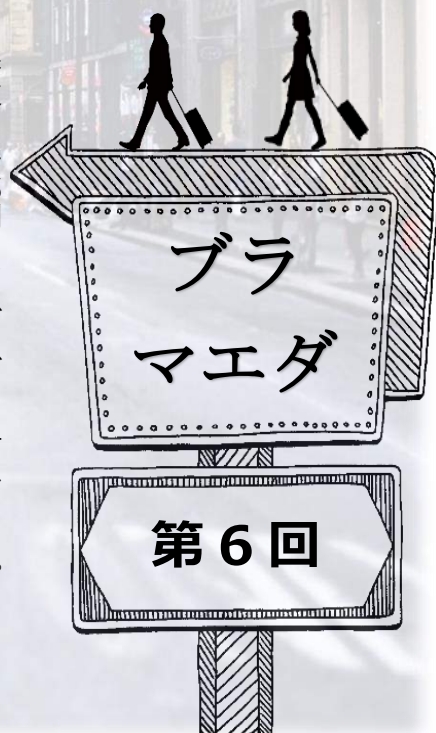


## 理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



### 「Good Job センター香芝」 をブラブラ

今回は「わたぼうし会 Good Jobセンター香芝」の安部剛さんをブラブラと訪ねました。



マエダ 「こんにちは。この度は、なにわの里Tシャツ(NEWSで掲載)の作成、ありがとうございました」

安部さん 「いえいえ、そちらの利用者さんに、とても素敵な絵を提供いただいたので、ワクワク楽しく取り組ませていただきました。コロナでメンバーコラボができなかったのが残念でしたね」

マエダ 「そうですね。是非、また別の機会にと思います。ところで、安部さんがこの世界に入られたきっかけや、現在のやりがいってどんなもんですか?」

安部さん 「私は学生時代から今回のTシャツ作成でも活用した、シルクスクリーン印刷に取り組んでいたのですが、とにかくきれいに仕上げることに価値を感じていました。しかし、この仕事を通して、それだけではなく、個性や味のあるテイスト、全員参加で取り組む楽しさ等、違う価値観に触れて、それを様々な方と共有することに魅力を感じました」

マエダ 「何かこれからの障害者福祉、地域連携・共生のヒントになるようなお話ですね。最後に、なにわの里、なにわの里のスタッフへの期待などがありましたら」

安部さん 「はい。今回の取り組みもそうかもしれませんが、世の中、自分たちだけでは完結できないことだらけなので、これまでのやり方に縛られず、自由な発想で、いつしよに何かを感じ取り、様々な課題に取り組んで行ければと思います」

今回も、紙面の関係上、超々コンパクトにまとめさせていただきました。正直、障害者アート活動に対して、「行動障害のある方への支援等、優先課題が別にあるのでは?」と置いていたところもありましたが、「変に縛られているのはこちらの方だ」と感じる事ができた安部さんとのやりとりでした(笑)。

# アトリエヤニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

### 【ツールの説明】

- (図1) 自分でタイマーを30秒でセットし、手順書で場所を確認しながら磨く
- (写真1) スタッフが磨き残しを確認後、カレンダーに絵をかく(磨いたという証明にもなる)

### 【ツールのメリット】

- 磨く箇所、順番が明確になる
- スタッフと関わるのが好きなため、スタッフがチェック表に絵を描くことでモチベーションアップになる
- 頑張りが「見える化」され、モチベーションの維持につながる

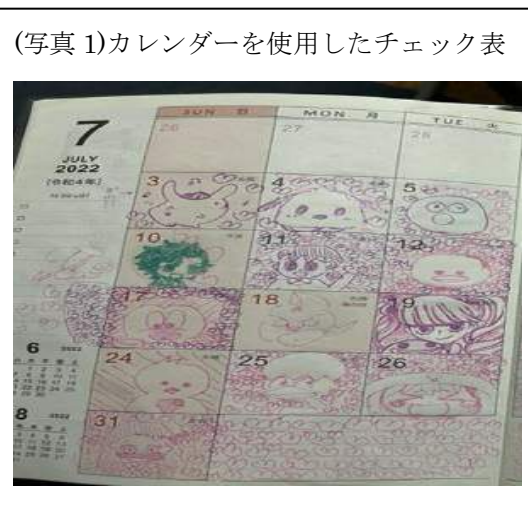
## 『 歯磨き 』

入所・支援1係 辻本みなの

(図1) 歯磨き手順書

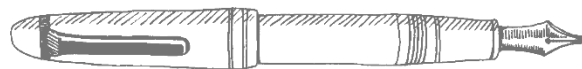


(写真1) カレンダーを使用したチェック表



# Case book

なにわの里 支援の実践紹介



楽しみがあることで家事活動のモチベーション  
を上げた支援

～ちょっとしたつまずきを修正する！～

入所 GH 支援 2 係 上田充雄



## 【はじめに】

利用者支援において、利用者さん自身でできることは、できるだけ自分で行ってもらうことが大事な視点だと思っています。ひとつずつできることを増やしていくことで、利用者さんの自信にも繋がります。

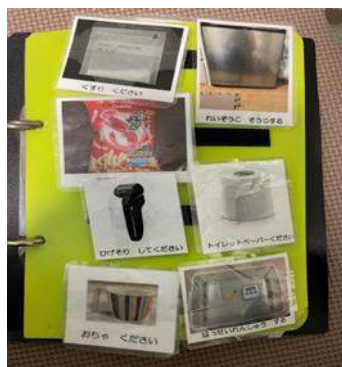
今回は、家事活動を支援した事例をご紹介します。

## 【Aさんの紹介】

Aさんは、なにわの里の施設入所を利用している、重度の知的障害をもった自閉症の方(46歳、男性)です。好きなことはテレビ鑑賞や飲食することです。Aさんは数字と平仮名の理解があり、1日の予定表(図1)を時間と平仮名で示すことで、見通しを持つことができます。自分で予定表を確認し、ファイルからカードを取り出し、カードをスタッフに手渡すことで活動を要求(写真①)します。

Aさん予定表(例)	
6:40	きがえ
7:07	ひげそり する
8:32	ごはん
	はみがき
	:
	:

(図①)



(写真①)

## 【家事活動を取り入れた経緯】

Aさんのご家族から、「本人の負担にならない範囲で、自分でできることを増やして欲しい」と、ご希望がありました。Aさんは夜間、いつでも自分のタイミングでお茶が飲めるように、部屋に冷蔵庫を置いて、就寝前にお茶が入ったコップを2つ入れています。その際、お茶がこぼれてよく冷蔵庫が汚れていました。そのため、休日に掃除シートを使って、冷蔵庫内の掃除をする家事活動を取り入れました。

### 【冷蔵庫掃除の方法を教える】

休日の予定表に冷蔵庫掃除の時間を示し、「冷蔵庫掃除をする」カードをスタッフに手渡して活動を要求する手順と、冷蔵庫内に番号札を貼って掃除シートで掃除をする手順をスタッフが教えました。

1か月間、スタッフと一緒に実施しました。その後、時間になれば、予定表を確認して、「冷蔵庫掃除をする」カードをスタッフに手渡して、一人で冷蔵庫内の掃除ができるようになりました。

ところが、2カ月程経過後、「予定表の時間になっても冷蔵庫掃除の要求に来ない」と、現場スタッフから報告がありました。

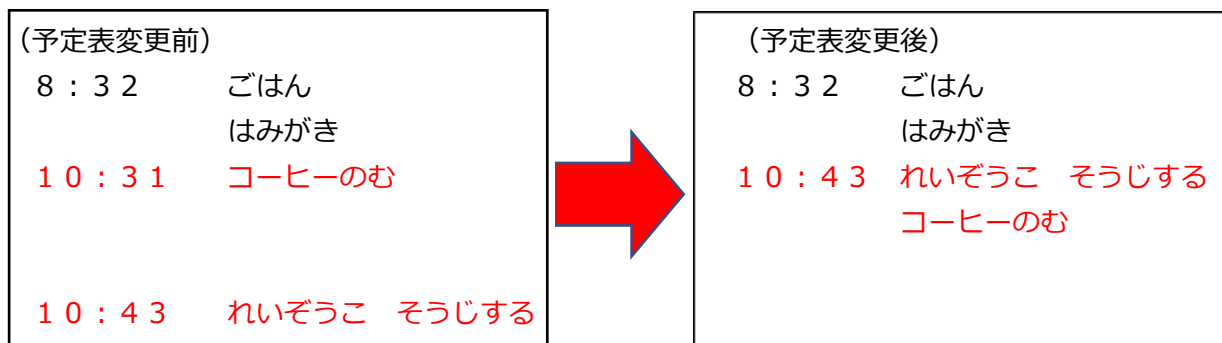


(写真②)

### 【冷蔵庫掃除の要求ができない原因を探り、再度、教える】

時間になっても冷蔵庫掃除の要求に来ない原因を考えました。Aさんの特性として、飲食することが好きであることに着目しました。予定表では、コーヒーを飲んでから冷蔵庫掃除になっていたため、予定表の時間と活動内容の順序が原因だと推測しました。また、冷蔵庫掃除をして終わりでは本人のモチベーションが上がらないと考え、予定表の示し方の変更を行い、再度、冷蔵庫掃除をしてからコーヒーを飲むことを伝えました。

それ以降、時間になれば、冷蔵庫掃除のカードをスタッフに手渡すことができるようになりました。



### 【まとめ】

今回の家事活動の支援を通して、物事を頑張っ取り組めば、本人が楽しみにしていることがあることで、Aさんのモチベーションが上がり、スムーズに家事活動に取り組むことができることがわかりました。

Aさんの今後の支援において、今回の支援での気づきを活かして、更に自分でできることが増えていけるよう支援して行きたいと思います。

以上

## ジムインこいけのなんでも日記

### 「頑張れない」があってもいい

先日読んでいた本の中に、「一生懸命“から”一所懸命“に”という一文がありました。「頑張れるときもあれば、頑張れないときもある。表に出ている行動や現象は、頑張っていない“でも、その人なりの苦しみやしんどさを抱えながら何とか過ごしていることを大切にしたい”というふうに読み取りながら、ある利用者さんとのやりとりを思い出しました。

その利用者さんとは定期的にお話をする機会があり、「いつおうち帰れるん？」という言葉をよく頂きます。「小池さんもわからへんねん」としか返せないのですが、そのやりとりの後に「しんどいけど、頑張ってるねん」と仰るのです。「そうやな、ほんまに頑張ってる」と返すのですが、本心から一所懸命に頑張っておられると感じます。その時その時表面に現れる行動や現象はいろいろかもしれないし、また「頑張れないとき“もあるのだと思うのですが、それらも含めてなんとか過ごしていこうと一所懸命なのだ、ということを教えて頂いています。

現場は日々色々なことが起こります。それを支えるスタッフは、本当に日々頑張っていると思いますし頭が下がる思いですが、その顔がつかうように見えるときがあります。スタッフも頑張れるときもあれば、そうでないときもある。「頑張れないとき“のしんどさをわかってもらえた時、自分を責めるような気持ちがおほぐれ、「こういうときもあるよな」と思いやすくなるのではないかと感じます。

僕自身、胸が苦しくなる症状が出て、前はできていたことができずに自信をなくしてしまふときがあります。でも、僕も僕なりになんとかやっていこうと一所懸命にやっているのだと思います。自分のあるがままを恥じることなく否定することなく、「頑張れないときも含めて自分だし、一所懸命だ」と見つめることができれば、そのままざしはきつと他者にも向かっていく、そう感じます。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2022年7月1日～9月30日

(敬称略・順不同)

(個人の部)

小島 武郎 白根 勝雄 田中 仁紀子 石井 純代 小島 純子 小島 俊郎

安井 喜誉嗣 西田 芳雄 山下 孝子 森 陽介 井上 政二 松田 恭一

辰巳 正夫

# STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— 市原さんが障害者福祉、なにわの里での仕事を始めた経緯を教えてください！

もともと飲食の仕事をしていました。転職を考えていた際、当初は「飲食つながり」で高齢者施設の厨房のお仕事を考えていたんです。転職サイトでいろいろな施設を見ていたところ、なにわの里のページを見つけて、その中の「自立支援」という言葉が目にとまりました。障害のある方という、「お世話」「介護」の対象というイメージが強かったので、「自立支援」ってどういうことだろう…と気になって見学をしてみる事になったんです。

障害のある方の施設という、ゆったりとレクリエーションといったイメージだったのですが、実際に見学してみると一人ひとりに必要な支援が緻密に組まれていることに驚きました。「やってみたい」「面白そうだ」とそこで思えたのがきっかけなのだと思います。

— そこから5年程が経ちますが、仕事をしていて嬉しかったことはどんなことですか？

「熱く何かを語り合える仲間がいる」ということが、自分にとっては本当にありがたいことです。仕事という「上から言われたことを黙々とやる」というイメージもあったのですが、ここはそうではなく、自分が思ったことや感じたことをまず聞いてもらえる、そしてお互いに「ああじゃないか」「こうなんじゃないか」とやりとりすることができます。自分を出していいんだ、話していいんだ、と思えることが嬉しい事ですし、ありがたいです。

— この仕事のしんどいこと、またやりがいはどこなところでしょうか。

利用者さんのことを理解しきれない時、あの方は何を本当はしたかったのだろうということに答えが出せない時、自分の未熟さを感じます。人相手のお仕事ですから、1+1=2といった簡単なことではないのはわかってはいるのですが、無力感、悔しい気持ちになります。もっと自分に知識があれば、と感じますね。

自分は援助者は「利用者さんのひとつの資源」だと思うんです。自分の知識が増えて、やれることが増えれば、それは利用者さんの生活の質が上がることにつながると思います。利用者さんの生活が変われば、やはり嬉しいですし、また成長していこうという気持ちになれます。それが自分にとって、ひとつのやりがいなのだと思います。



市原 誠

(入所・グループ  
ホーム支援2係)

第108号

2022年11月4日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail [naniwa@naniwanosato.jp](mailto:naniwa@naniwanosato.jp)

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右のQRコードから  
かんたんアクセス！

